

## 第4章 まちづくりの基本目標

まちづくりは、保健、福祉、教育、自然環境、都市基盤整備、防災、生涯学習、産業振興などの多様な分野からなり、総合的・複合的な取組によってはじめて実現されるものです。これらの分野を横断的に整理し、まちづくりの方向性を示すものとして、次のまちづくりの基本目標を定めます。

まちづくりの基本理念の下、本市が抱える地域課題に的確に対応し、まちの将来像を実現するため、この7つの基本目標に基づいて政策を立て、施策を展開していきます。

### 目標1

#### みんなが健康で元気なまちづくり

子どもから高齢者まで、市民一人ひとりが健康で、安心して暮らしていくことができるよう、保健や福祉の充実を図ります。

今後、急速な高齢化の進行が予想されることから、高齢者の健康維持や生きがいづくりを積極的に進めます。

### 目標2

#### 子どもが健やかに育つまちづくり

少子化が進む中、安心して子どもを産み育てられる環境を整備し、まちの活力維持と定住化につなげます。

また、郷土に暮らす子どもたちをどう育て上げるかの教育姿勢を示し、学校・家庭・地域が連携し、子どもが健やかに育つ環境づくりを進め、糸島の未来の担い手となる人材を育てていきます。

さらに、子どもたちが食に対する正しい知識を身に付け、また、地域への愛着を高められるよう、糸島の豊かな農林水産物を生かした食育を推進します。

### 目標3

#### 海、山、川をたいせつにしたまちづくり

糸島の豊かな海、山、川をたいせつに守り、後世に引き継いでいくため、市民との協働による自然環境の維持・保全を図っていきます。

また、これらの自然を、健康づくりや観光などさまざまな分野に生かすとともに、地球温暖化の原因となる化石燃料エネルギーの利用削減、地球に優しい多様なエネルギーの導入、循環型社会※の構築に向けた取組などを積極的に進めます。

### 目標4

#### 快適に暮らすことができる安全・安心のまちづくり

市街地から農山漁村に至る多様な地域特性を生かしながら、人々が快適に暮らし続けることができるよう、道路、公園、上下水道、情報通信などの生活基盤を充実するとともに、災害に強く、犯罪の少ない安全・安心なまちの形成を目指します。

特に、九州大学学術研究都市※づくりを意識し、都市基盤の整備を進め、生活利便性を向上させることで、大学、企業、研究所などの関係者の定住化を促進します。

さらに、環境問題への対応と、子どもたちや高齢者などの日常生活における移動手段の確保のため、公共交通機関の充実を図ります。

#### 用語解説

- 循環型社会…………… リサイクルの推進などにより廃棄物を少なくし、資源として循環利用することで、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷を低減する社会のこと。
- 九州大学学術研究都市…………… 九州大学を核とて、多くのヒト、モノ、情報が集まり、産学官により新たな学術、産業、文化が芽生える知的交流拠点となる都市。

目標5

みんなの力で  
進める協働の  
まちづくり

市民、各種団体、企業、学校、行政などの多様な主体が、役割を分担しながら、協働によるまちづくりを推進していくための環境・仕組みづくりを進めます。特に、地域の抱える課題を地域みずからが解決していくため、小学校区ごとに地域の実状に即したきめ細かなまちづくりを進め、地域力の醸成を図ります。

また、誰もが学ぶことのできる生涯学習機会の充実を図るとともに、地域における国際交流の促進、人権・同和教育や男女共同参画社会の推進、地域の伝統・文化の伝承活動や文化・芸術の振興に取り組みます。

さらに、九州大学関係者との文化・スポーツ交流を通じて、市民と九州大学とが互いを身近に感じることができる関係を築きます。

目標6

経営感覚を  
持った  
持続可能な  
まちづくり

人口減少・高齢化の進行などに伴う税収の減少、社会保障費の増大、社会基盤の維持・更新のための支出増など、今後、ますます財政的に厳しくなる中、将来にわたって安定した市民サービスを提供するため、積極的な行財政改革を実施し、選択と集中による自律的なまちづくりを進めます。

また、「糸島らしさ」を十分に認識し、糸島の独自性を発揮させることで他地域との差別化を図り、「いとしまブランド」の価値を高めるための経営を進めます。

特に、地域課題や行政課題の解決については、九州大学との連携協力協定※に基づき、大学の持つ知的・人的資源と本市の持つ地域資源とを相互に、最大限に活用することで、より効果的で特長のあるまちづくりを推進します。

目標7

地域資源を  
生かした  
産業創出の  
まちづくり

本市が持つ豊かな自然・歴史・文化と優れた交通アクセスを生かしながら、生産基盤の整備、後継者の育成、新鮮な食材の生産・消費の促進による農林水産業の活性化、市民の雇用創出に寄与する魅力ある商工業の振興、農漁商工連携による「いとしまブランド」の付加価値の増大に努めます。

また、市内にある多彩な観光資源と最新の観光需要とを結びつけ、多様で魅力あふれる観光を振興します。

さらに、九州大学の移転効果を積極的に生かし、新エネルギー※や環境対策など、先端技術を持つ研究所や活力ある企業の誘致を図り、新たな産業の創出と市内の経済基盤の強化を目指します。

用語解説

- 連携協力協定…………… 平成22年5月に締結した「国立大学法人九州大学と糸島市との連携協力に関する協定書」のこと。
- 新エネルギー…………… 太陽光、風力、バイオマスなど、石油に代わるクリーンなエネルギー。